

# ダブルスのペアにおける関係性の質的研究

田中 夕貴 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 豊田則成

キーワード：解消 価値観 勝敗 組みたくない 合わない

## 1. 緒言

本研究の目的は、女子大学生テニスプレイヤーは、「ダブルスのペアにおける解消をどのように意味づけるのか」というリサーチクエスチョン(RQ)を設定、質的にアプローチをし、発展継承可能な仮説的知見を導き出した。

## 2. 研究方法

情報提供者は、関西学生テニス連盟に所属し、全国大会を経験した 9 名であり、1 対 1 の半構造化インタビュー(1 時間程度)を行い、その会話の内容を録音した。録音データを基に逐語を行い、そのデータから複線径路・等至性モデル(TEM)を用いて分析し概念図に表した。

## 3. 結果および考察

分析の結果、「女子大学生テニスプレイヤーは[これまでの経験から理想のペアを求める①]が[周囲の指示で組まざるを得ない②]により理想通りにいかず、自分を納得させようとするが[レベルの差を感じる③]ことから[自分の思い通りに行かないことが目立ち始める④]ようになり、試合の結果も負けが続く。そこで[うまくいかないことから何とかしようとする⑤]が、改善策はうまくいかず、[これ以上組むことが困難だと感じる⑥]ことから解消しようとする。[解消後のペアとの関わり方⑦]において、時間が経てばまた組むことができるという意見もあるが、解消をしたペアに対しもう一度組みたいと感じることは避けたいと感じる。そして解消の原因は、ペアとの勝ちに対する価値観の相違による」という仮説的知見を導き出した。

導き出された概念図を図 1 に示す。

## 4. まとめ

ダブルスのペアを組んでいく中で女子大学生テニスプレイヤーは「ペアとの勝ちに対する価値観の相違が生じる」と意味づける。

## 引用・参考文献

安田裕子・サトウタツヤ (2012) TEM でわかる人生の径路 (誠信書房)

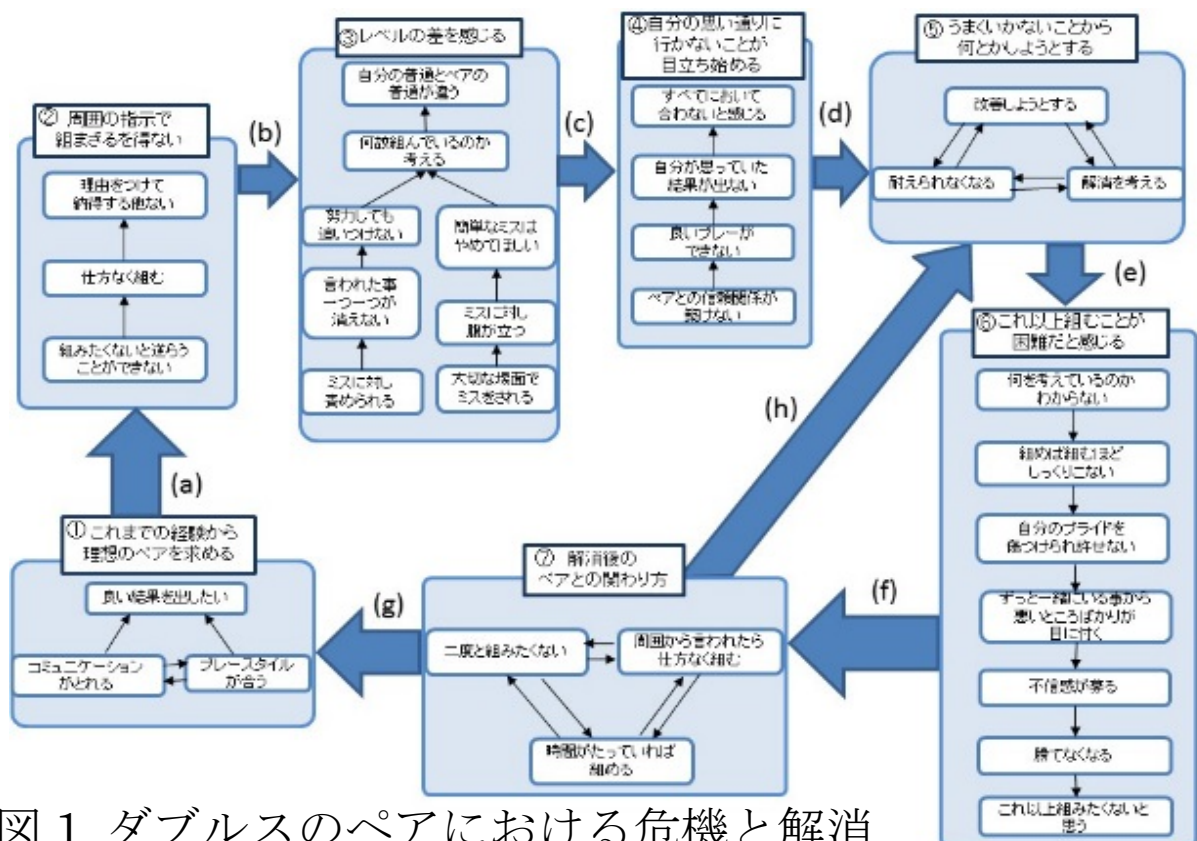


図 1 ダブルスのペアにおける危機と解消